

平成20年度予算に係る航空関係公共事業評価

新規事業採択時評価

【空港整備事業】

(直轄事業)

事業名 事業主体	総事業費 (億円)	費用便益分析			貨幣換算が困難な効果等による評価	担当課 (担当課長名)	
		貨幣換算した便益(億円)		費用:C (億円)			B/C
		便益の内訳及び主な根拠					
新千歳空港19(L) ILS双向化事業 北海道開発局 東京航空局	20	58	<p>1. 便益の内訳</p> <p>①到着予定便のダイバート回避による便益：7.5億円</p> <p>②到着予定便の欠航回避による便益：2.0億円</p> <p>③出発便の欠航回避による便益：2.0億円</p> <p>④遅延便の遅延回避による便益：42.5億円</p> <p>⑤残存価値：4.7億円</p> <p>2. 遅延率の改善 遅延率が現状(平成16~18年度の平均)の7.3%から6.9%へ改善が見込まれる。</p>	25	2.3	<p>・乗客に不安感を与える、空港上空での旋回や降下上昇を繰り返す回数が減少し、利用者の航空機に対する安心感が向上する。</p> <p>・悪天候時の離着陸に対する乗員の精神的負荷や実際のワークロードが軽減される。</p> <p>・上空待機等によるフライト時間が減少することによる、NOx、CO2等の排出ガスの削減や騒音影響の軽減などが見込まれる。</p> <p>・道内観光地の人気が続いている中、北海道の玄関口として就航率の向上を図ることにより、北海道経済への波及効果がある。</p>	本省航空局 飛行場部計画課 (課長 干山善幸)

事業名 事業主体	総事業費 (億円)	費用便益分析			貨幣換算が困難な効果等による評価	担当課 (担当課長名)	
		貨幣換算した便益(億円)		費用:C (億円)			B/C
		便益の内訳及び主な根拠					
新千歳空港19(R) ILS高カテゴリー化 事業 北海道開発局 東京航空局	15	70	<p>1. 便益の内訳</p> <p>①到着予定便のダイバート回避による便益：25.8億円</p> <p>②到着予定便の欠航回避による便益：19.0億円</p> <p>③出発便の欠航回避による便益：12.1億円</p> <p>④遅延便の遅延回避による便益：10.5億円</p> <p>⑤残存価値：3.4億円</p> <p>2. 欠航率の改善 自空港気象原因による欠航率が現状(平成16~18年度の平均)の0.48%から0.39%へ改善が見込まれる。</p>	32	2.2	<p>・乗客に不安感を与える、空港上空での旋回や降下上昇を繰り返す回数が減少し、利用者の航空機に対する安心感が向上する。</p> <p>・悪天候時の離着陸に対する乗員の精神的負荷や実際のワークロードが軽減される。</p> <p>・上空待機等によるフライト時間が減少することによる、NOx、CO2等の排出ガスの削減や騒音影響の軽減などが見込まれる。</p> <p>・道内観光地の人気が続いている中、北海道の玄関口として就航率の向上を図ることにより、北海道経済への波及効果がある。</p>	本省航空局 飛行場部計画課 (課長 干山善幸)